

令和7年度呉市病院事業経営強化プラン評価委員会 議事録

◎概要

日 時	令和7年11月13日（木）15時00分～16時15分
場 所	本庁舎2階 防災会議室
出席委員	（委員長）石井委員，栗栖委員，大上委員，原田委員，岡本委員，山崎委員，黒神委員，堀江委員，多保委員
欠席委員	景山委員（書面による意見・質問書提出）
事務局	戸坂福祉保健部参事，稲垣福祉保健部副部長， （病院事業課）岩崎課長，井上主査 （福祉保健課）加登課長，鎌田課長補佐（GL），清水
会議内容	呉市病院事業経営強化プラン 令和6年度の評価について

◎議事

（石井委員長）

定刻となりましたので，ただ今から令和7年度呉市病院事業経営強化プラン評価委員会を開催いたします。

本評価委員会は，呉市病院事業経営強化プラン評価委員会設置要綱第1条により，呉市病院事業経営強化プランの進捗状況について年度ごとに点検・評価を行っていただくものです。

本日の出席委員は10名中9名で，委員の半数以上が出席されております。よって，呉市病院事業経営強化プラン評価委員会設置要綱第4条第1項の規定により，委員会が成立していることをご報告いたします。

また，本日は今年2月に実施しました委員会から，委員の新任及び交代がありましたので，あらためて委員の皆様をご紹介します。

お名前を読み上げますので，一言ずつお願いいたします。

（石井会長 自己紹介）

中国労災病院院長

栗栖 薫（くりす かおる）委員

大上功公認会計士税理士事務所所長

大上 功（おおうえ いさお）委員

呉市下蒲刈地区自治会連合会会長

原田 敏信（はらだ としのぶ）委員

呉市蒲刈地区女性会会長

岡本 智恵子（おかもと ちえこ）委員

呉市消防局副局長

山崎 幸恵（やまさき ゆきえ）委員

呉市下蒲刈市民センター長

黒神 千恵（くろかみ ちえ）委員

呉市福祉保健部長

堀江 敏明（ほりえ としあき）委員

公立下蒲刈病院長

多保 孝典（たば たかのり）委員

広島国際大学 健康科学部 医療経営学科 講師

景山 愛子（かげやま あいこ）委員は本日御欠席の連絡をいただいております。

改めて、よろしくお願いします。

それでは、早速ですが議題に移ります。

本日は、事務局から資料について説明していただき、その後、質疑応答、提案などをいただきます。

では、事務局から説明をお願いします。

（加登課長）

資料に沿って R6 決算状況説明

（石井委員長）

ただ今の事務局の説明について、何か御意見、御質問等はありませんか。

（大上委員）

金額的には大した比率ではないですが、医業費用の材料費が前年比べて、5パーセント以上減少しております。物価高騰でかなり努力されたんだなという部分がありますが、特別な事情とかあれば教えていただければと思います。

（岩崎病院事業課長）

基本的な材料費の削減については、令和5年度において計上していた新型コロナワクチン費用や注射器という機材が、令和6年にはなかったためで多少減額となっています。

(大上委員)

そうですか、わかりました。あと、どうしてもやはり医業損益のところがですね、しっかりと収入を増加させる努力をされていますけれども、それ以上に人件費の増加が上回ってしまったという結果になっていると思います。医療機関どこもそうだと思いますが、なかなか解決策は難しいですが、このあたりで検討されていることがあれば、聞いていただければ。

(石井委員長)

事務局から何かありますか。

(岩崎病院事業課長)

人件費においては、やはり人事院勧告や民間の動きをベースにしておりますので、給与を抑えるということは非常に厳しい面がございます。ただし、職員を削減するというわけにもいきませんし、先生方もしっかりと勤務していただいております。費用は抑えていきたいのですが、現状、民間の病院などとも比較しながら検討しているところで

(石井委員長)

ありがとうございます。事務局のプランの方の説明の後に、またご意見等を伺いたいと思います。説明を続けてください。

(加登課長)

資料に沿って説明

(石井委員長)

ただいまの事務局の説明について何かご意見、ご質問等はありませんか。

(原田委員)

経営改革について、国の方からポイントをもって「ここを改善しなさい」とか「指導」といったものはあるのですか。

(岩崎病院事業課長)

特にここを改善したらといった指摘はございません。事務的にきちんとしておくということです。

(原田委員)

経費を節減しようと思ったら、人件費、材料費だと思いますが。人口減少している中、入院患者を増やすのは難しいのではないかと。あと、医療事務というのは特殊で難し

いと聞きますが、誰でもできる事務ではないということですか。

(岩崎病院事業課長)

私どもの資料を作るのも市の職員ですが、やはり専門的な知識を要します。異動してきたからといってすぐにできるわけではなく、前任者から引き継ぎを受けて対応している状況です。

(原田委員)

新しい人が入ると指導が必要ですね。例えば5年計画などで人を育てて、成長していくような仕組みはあるのですか。

(岩崎病院事業課長)

私どもも市の職員ですので、人事課の異動になりますが、ベテランが職場の中でチームとして指導し、技術を引き継げるよう対応しています。

(原田委員)

もう1点。病院に行くと、職員さんは脇目も振らず一生懸命仕事をしている。それだけ仕事をしていたら、もっと良くなるのではないかと。職員さんから「こうすれば儲かるのではないか」といった具体的な話は出ませんか。

(岩崎病院事業課長)

職員が少ない中で経営しておりますので、外部の力、専門的な知識も借りる必要があると考えています。

(原田委員)

第三者の住民から見ると、専門職の方は長く勤めていらっしゃる。もう少し活性化して、仕事が盛り上がるようなことができないかなと常々感じています。何かいい知恵があったら教えていただきたい。

(岩崎病院事業課長)

異動ができない専門職もありますが、新しい専門知識を持った職員を招き入れて、一緒にやっていきたいと考えています。職員の希望を聞きながら、人事の方にも要望を出していきたいと思います。

(石井委員長)

質問に関連して、本日欠席の影山委員より書面でご意見をいただいておりますので、紹介をお願いします。

(加登福祉保健課長)

影山委員からの意見，別紙

(岩崎病院事業課長)

1 点目の外国人看護助手は現在，雇用しておりません。会計年度任用職員としての雇用は要件を満たしていれば可能ですが，技能実習生などの受入には現行制度上の課題，言語の課題もあります。将来的に人手不足が深刻な場合には外国人の受入を検討してまいりたいと思います。

2 点目の RPA ですが，現在は院内ネットワークで勤務状況等の，診療以外の情報共有をしています，受付から診療，支払までの一連の事務の効率化までは至っていません。令和 9 年度までの電子カルテ導入により，病棟・外来・リハビリ等の間で患者情報の共有化により，事務の効率化が図れるものと考えております。RPA についても他市の状況を踏まえて検討してまいります。

(石井委員長)

影山委員からの意見でも構いませんし，なければ皆様からご意見をいただきたいと思います。

(堀江福祉保健部長)

補足ですが，RPA は繰り返しの作業を自動化するものですが，今の病院の事務量で見ると，なかなか費用対効果が難しい面もあります。ただ，市役所の中に導入支援の部署がありますので，相談しながらできるものからやっていきたいと考えています。

(栗栖委員)

RPA については，病院規模や事務量を考えたときに，病床数が限られているところではなかなか費用対効果の面で難しいというのが学会などでの一般的な意見のようです。電子カルテが入れば情報の共有と迅速性が全く変わってくると思いますので，そちらでの対応が主になるのではないかと思います。

(栗栖委員)

限られた体制，医療資源の中で大変立派に運営されていると思います。当方（労災病院）からも多くの患者さんをご紹介します，回復期でお世話になっています。臨床研修医の指導についても感謝申し上げます。私たちも学生さんにアピールして，当院で研修して卒業してもらえるよう工夫しています。ホームページでの広報なども若い方には有効です。応募してくれる学生は昨年 30 人だったが，今年は 31 人来てくれた。広範囲から来てくれている。

人口減少は激しいですが，超高齢の方々もいらっしゃるので，医療の機会を逃さないよう連携していければと思います。

(大上委員)

病院の経営がどこも厳しいというニュースを見ますが、院長先生は医療だけでなく幅広い経営判断も求められる。大変な環境だと思います。

(原田委員)

特定健診の受診率についてですが、とにかく高齢者が多い。早く病気が見つければ楽になると説得するのですが、「もう先は短いから」という返事しか返ってこない。自治会の方でも諦めムードがある。

(加登福祉保健課長)

特定健診については、受診していない方に直接お手紙を出したりしていますが、後期高齢者の方は広島県広域連合からの通知になるため、手紙に気づかない方もいらっしゃいます。来年度は「メリットしかない」ということをしっかり PR して、行動変容を促していきたいです。

(原田委員)

人を説得するには、郵便物だけでは 0 点です。高齢者は通販の DM だと思って捨ててしまう。視覚に訴えるだけでなく、人間関係の中で「あんた、検診行ったか」と何度も言われるようなやり方を考えないと。自治会にお願いしても「努力します」で終わってしまう。もう少し踏み込んだやり方を考えてほしい。

(多保委員)

取組としては、7 月に豊町の安芸灘交流会館で検診の現状に関する講演、11 月は病院事業での健康まつり、病院に来院した患者さんに対して検診を促す声かけをしています。

(岡本委員)

地元にあるのは心強い存在である。

(山崎委員)

安芸灘の人口は減っていますが、救急件数は減っていません。積極的に受け入れていただき本当に感謝しています。今後とも連携をお願いします。

(黒髪委員)

市民センターとして、交通手段の確保が大切だと思っています。現在「公共ライドシェア」の実証実験をしていますが、登録者（80 名ほど）のほとんどの行き先が下蒲刈病院です。病院へのアクセス手段として、1 月 31 日まで継続しますので、ぜひ活用していただきたい。料金は 1 回 300 円、事前予約制です。11 月の健康まつりでも無料体験会を行いました。使い方がわからない高齢者の方への案内も続けていきます。

(堀江委員)

人事の話が出ましたが、私の責任でもありますので、しっかりと訴えていきたいと思っています。病院の経営を考えたとき、どうしても医療職が優先され、事務員は後回しになりがちですが、言い続けていかないと忘れられてしまいます。また、建物は古いですが、待合室の椅子を替えたりクリスマスツリーを出したり、中の人間が暗くならないよう工夫して運営してまいります。

大上委員の医業収益が上がってこない件について、各大学病院等赤字経営が増えているという記事を先日読みました。市民一人ひとりが、医療というのはお金がかかるというのを認識する必要があると思っています。高市総理より、診療報酬改定に先駆けて補助金をという話も出ておりますので、そういった補助金を活用しながら経営を安定化できるように、また、経営を支えるための医師や看護師の確保を皆で連携してやっていきたいと思っています。

(原田委員)

最後に1点。熊本の病院で「赤ちゃんポスト」の話を聞きましたが、命を救う仕事は本当に素晴らしい。パンフレットに「寄付募集」と書いてありましたが、今の募金箱では5万円も入れようとしたら入りません。これまで世話になった病院に対して寄付したいという考えを持つ方は多いはずです。地方でもそういう仕組みを作っていけるのではないかと検討をお願いします。

(石井委員長)

ありがとうございます。いただいた意見は次のプランに反映されとのことですので、よろしくお願いします。以上で本日の議題を終了いたします。

(加登福祉保健課長)

本日はありがとうございました。令和7年度の評価については、また来年度開催いたします。引き続きお力添えをお願いします。

(石井委員長)

これをもちまして、評価委員会を終了いたします。誠にありがとうございました。